

令和6年

第1回教育委員会会議録

(開会 令和6年1月19日)

(閉会 令和6年1月19日)

岐阜県可児市教育委員会

令和6年1月19日午前9時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

出席委員

堀部好彦君（教育長）

長井知子君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）

梶田知靖君（教育委員）

欠席委員

小栗照代君（教育委員）

説明のために出席した者

飯田晋司君（事務局長）

水野 修君（教育総務課長）

佐野政紀君（学校教育課長）

水野伸治君（学校給食センター所長）

上北泰久君（学校教育課主任指導主事）

三宅愛彦君（教育研究所主任指導主事）

福田真弓君（学校教育課学校支援係長）

古野 寿君（教育研究所指導主事）

出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）

小池拓哉君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

1 開 会

2 教育長報告

3 教育委員報告

4 議 事

①報告第1号 令和6年度全国学力・学習状況調査の参加について（原案承認）

②議案第1号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）

③令和5年

議案第37号 個人情報等の開示等審査請求裁決書について（原案可決）

5 各課所管事項

6 委員からの提案協議事項

7 その他

8 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。

これから令和6年第1回の教育委員会会議を開催させていただきます。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということですのでよろしくお願いいたします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） まず教育長報告でございますが、4点お話をさせていただきます。

まず1点目、能登半島地震を話題に上げさせていただきます。本当に大きな被害、毎日毎日心の痛む映像が流されているわけですが、そういう中で輪島市の中学生が250名でしたか、県内南の施設に避難ということで、これもこれまではなかったような取組ということで、子供たちの思い、それから保護者の思い等が報道されています。

教育に携わる私たちが、この災害を見て何をすべきなのかということのを常に考え続けたいなあということを感じるわけですが、一言で言えば、私は忘れないこと、生かすこと、この2つじゃないかなあというふうに思っています。自分事として、この報道に積極的に触れていくこと、自分の見方で、自分の考えを持って、この報道に触れていくことが大切なあというふうに、漠然とした言い方ですけども思っています。これが1点目。

2点目ですが、花いっぱい運動ポスターコンクール、これは昨年末に表彰式がありまして参列しました。今1階のフロアのロビーのところに、そのポスターの作品が掲示されております。ぜひ見ておいていただくとありがたいんですが、教育長賞は保育園の、幼稚園だったかな、とにかく園児でした。いっぱいの花といっぱいの笑顔がセットになったすてきなポスターでした。ほかの作品も同様に、多くの作品がみんなで見え、花いっぱいにしていこう、そして笑顔いっぱいのまちにしていこうというような趣旨を感じるような作品でした。そういった願いがあふれるコンクールの表彰式でした。

私は、先ほど申し上げたように、園児に表彰状を渡した後、祝辞を述べさせていただきましたんですけども、その中で、いろんところで話しているわけですが、可児市が目指す「笑顔の“もと”」を育む教育についても話をさせていただきました。これが2点目です。

3点目、成人式です。参列お疲れさまでした。私も一緒に参列をさせていただきましたが、成人代表の言葉がありました。私、その言葉、いろいろ印象に残る言葉があったんですが、この後その言葉を引用させていただきますが、可児市教育の成果を感じるとても美しい文章だなというふうに思っています。特に感じたところは、こんな表現でした。

僕自身は可児市で生まれ、可児市で育ち、このまちが大好きです。成人式を迎えた全員が年を重ね、他の地域で新たな生活を始めたとしても、それぞれの道しるべの中に可児市が必ずありますように、可児市で育ったことを誇りに思える僕たちでありたいというところが私は一番印象に残っています。可児市を愛する気持ち、誇りに思う気持ちを道しるべとして、これからみんな一生懸命生きていこうよという投げかけに大変共感を

しました。これが3点目です。

最後4点目ですが、年明け1月11日の校長会、新年を迎えて、可児市校長会長 東可児中学校長の校長が語ったことを紹介させていただきたいなあというふうに思います。

1月9日、授業開始日で村上校長は、全校集会が学校で授業開始日ですのであります。この全校集会で、石川県能登町の中学生が避難所で働く姿、高校生もいたそうですが、テレビで紹介された避難所で働く中高生の姿を紹介されました。水をバケツリレーで避難所に運ぶ姿を紹介したと。寒さの中、避難が続き、深刻な水不足であるという状況で、バケツリレーでトイレまでそれを運搬していた。この姿を校長はなぜ紹介したのか。

東可児中学校の教育目標、言い換えれば「笑顔の“もと”」の中に「貢献」という言葉があります。社会を支えていこう、自分が社会に役立つ人間として人と関わっていこうという力を身につけさせたいという学校の願いがあるわけですが、その願いに照らして、こういう姿が、私たち東可児中学校が目指す姿じゃないかと子供たちに投げかけられた。被災地における人々の生きざま、中学生の生きざまを自分の学校の取組、目指すものに照らして見詰めている。その映像を見たときに、校長はそういった視点で見ているということなんだね。すばらしい校長の教育観だなあというふうに思います。私は、学校は校長の教育観のようになっていくよというふうに常々申し上げているんだけど、こういうことじゃないかなあというふうに思っています。

そうしたら、この日の東可児中学校のお昼の放送で、生徒自らが全校生徒にちょっと給食を食べるのをやめてください、やめてもらえませんか。もしできれば被災地の亡くなられた方々のことを思い、黙祷をしませんかと投げかけたそうです。先ほども申し上げたんですけれども、校長の教育観が学校をつくるというのはこういうことじゃないかなあというふうに思っています。今年もこういった、今後も校長の教育観に期待をしていきたいなあというふうに思います。

災害と教育というのは、非常に私は関係のあるものじゃないかなあなんていうことを思って、今のが一つの例なんですけれども、もう一つ能登半島地震に関わるエピソードで、先日、神戸の若い学生さんたちが今度は私たちが能登を支える番だと募金活動の先頭に立って呼びかける報道に私は触れました。見たところ若い学生ですので、18歳、19歳、20歳、21歳、22歳かなあなんていう年代がね。そうすると阪神・淡路大震災は29年前ですよ。生まれていなかったんですよ。でも、今度は僕たちが支える番なんだと。この言葉が引き出された背景、いろんな背景があるだろうなあというふうに思います。恐らくや生まれたときには数年前、7年、8年前ぐらいに震災が起こっている。親さんや地域の方やいろんな方に支えてもらったんやぞということ聞きながら育ったのかなあ。または小学校・中学校・高等学校等の防災教育の中で、日本中の方々に支えられて今の神戸があるんだという教育を受けたのかなあいろんな背景を想像しました。

災害はとつてもつらい不幸な事実を生み出してしまうわけなんですけれども、人々に。なんだけれども、教育の力は、そういった中で未来を明るく照らすような取組を生み出す、そんな人間を生み出すということではないかなあというふうに思います。

ということで、能登半島地震を教育に携わる者としてどう見詰めていくのかというようなことで、私なりの考えも述べたつもりでございます。

以上で教育長報告でございます。

教育委員報告

- 教育長（堀部好彦君） では、教育委員報告に入りたいと思います。
- 教育委員（長井知子君） おはようございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

教育委員としては、教育長と同じく成人式に参加させていただきました。その中で議員さんも言われていたんですが、私も含めてですが、子供たちに覚えてもらいたいというのは、今ある生活が当たり前ではないということです。

私が何年か前にPTAをしていたときに防災フェスタというのをやって、そのときに起震車を呼んだんですが、そこで震度7の体験を子供たちにしてもらったんです。私も震度7を経験しましたが、震度6・7というのは本当に立っていられなくて、テレビも飛んできます。そんな中で思ったのが、子供たちは自分の命は自分で守る、そういうことをそのときにお呼びした防災のスペシャリストの岐阜大学の村岡先生に教えていただきました。生きていれば、自分の命を自分で守っていれば必ずまた家族と会える。だから、まずは自分の命を守りなさいということでした。なかなか大きな経験をしたことがない私たちは、地震を想像することができないんですが、まずは自分の命を守って、家族が何かあったときに集まれる場所を決めておく、そういうことをいま一度家族内で話し合ってもらえたらなと思いました。

あともう一つ村岡先生が教えてくださったのが、前にもお話したと思うんですけども、学校で教壇の黒板の横に先生方の本棚、荷物置きみたいなものがあって、その上に物があると、地震があると子供たちに飛んでいくので、そこには物を置かないようにということでした。学校訪問に行ったときにこっそり見ているんですけど、意外に学校の側では荷物はなかったの、どの学校も。ああ、いいなあと思って安心して見えています。以上です。

- 教育長（堀部好彦君） ありがとうございます。
防災フェスタを開いたというのは、PTA主催でという。
- 教育委員（長井知子君） 主催でやりました。
- 教育長（堀部好彦君） 中身どんなことをやられましたか。
- 教育委員（長井知子君） 起震車を呼んだのと、あと消防団を呼んで消火器をやるのと、あとすごく大変だったんですけど、卵の殻を集めて、それをぐちゃぐちゃにして、そこを子供たちに素足で歩かせる。ガラスに見立てて、素足で歩かせると痛いよねということなどを行いました。
- 教育長（堀部好彦君） その卵の殻の取組はどこから。
- 教育委員（長井知子君） 卵の殻はケーキ屋さんに行って、みんなで卵の殻をもらって、薄皮をめくって、すごい集めました。
- 教育長（堀部好彦君） すごい。そのアイデアは、その取組はどこかで仕入れたということなんですよ。
- 教育委員（長井知子君） 私が県のほうのPTAに行っていたので、県に行くと岐阜県中の情報が入ってきます。いろんな学校が防災に取り組んでいたというのがあって、やってみたいなあと思ってやりました。

○ **教育長（堀部好彦君）** 自分の命は自分で守るなど命を守るという文言、これっていつ頃から教育の現場で語られるようになったのかということなんだけれども、恐らく東日本大震災からなのかなあなんて思うんですけれども、能登半島地震をきっかけに、また防災に関するキーワードというものが出てくるかもしれないというふうに思うと、防災教育が新たな工夫を求められるということもあるかもしれませんので、また学校訪問等の折には防災教育について話題にされるととてもいいんじゃないかなあと。ありがとうございました。

○ **教育委員（伊藤小百合君）** おはようございます。本年もよろしくお願ひいたします。

皆さんと同じく1月7日に、成人式に来賓として出席させていただきました。コロナ前は何回か出席させていただいて見せていただいたんですけど、久しぶりに成人になった方たちを間近で見るのはすごく成長を感じることができて、自分の子供たちとも年代が近いので、顔見知りの子供さん、若干しか見かけられなかったんですけど、見たりとか、こんなふうに大きくなったんだとか、すごくりりしくなったとか、個人的な感想なんですけど、見せていただきました。

教育長もお話しありましたけれども、お話をした代表の方とか、若い人たちの考えを聞くというのはすごく自分にも刺激になりますし、お話ししていることが、ああなるほどとか、成人した人たちはこうやって考えを持っているんだとかいうのを、改めて考えさせられたりとか感じる事ができて、自分の子供たちとも比較しながら、あまり口に出さないけど、こういうふうに考えていたりとかするのかなということを思いながら聞いていました。

ちょっと地震の話になりますけれども、地震が起きたときに自宅にいたんですけど、子供たちが、ちょっと今回揺れが長かったので、それもあったかもしれないんですけど、揺れたときにすぐに机の下に子供たちは頭を隠していました。私は何が起きたのというような感じでいたんですけど、さすがにちょっと揺れが長いので、子供に呼ばれて、駄目だよと言われて頭だけ隠したんですけど、そういう自分の、先ほどの命を守るというか頭も守るというので、小・中学校で防災の訓練を1年に何回かやっていると思うんですけど、やっぱりそういうのが根づいて、自分の身を守るということにつながっているんだなというのを改めて感じまして、今後も続けていただきたいなというのを思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。

コロナ5類後ということで、これまで私が1年、2年、参列させていただいた成人式とは違う、元に戻った形の成人式になったんだけど、来賓の方々も多かったですね。私が去年、おとし参加させてもらったのとは違いました。国会議員はじめ県議会議員、市議会議員ということで、あと自治連の会長さん、もちろん皆さんもそうなんですけれども、自治会長さんも含めていろいろたくさんの方が参加をされていました。

来賓紹介で市議会議員の紹介がされたときに、市議会議員の皆様ですということでした。たくさん市議会議員が立たれた。あれを見て、成人の方たちがお一つ声を上げてみえたんだけど、これだけたくさん見えるのかという驚きだったのかなというふうに思いました。

いろんなところで成人の方々がお一つと言っておるところがあったんですけども、ちょうど今給食センター所長さんがいらっしゃるので紹介をしますと、お一つと言ったことの幾つもあった中に、成人の方たちのクイズがありましたよね、いろんな市のクイズがあったんですけども、そのクイズをスマホのライトで、こちらだと思う人、こちらだと思う人と2択の問題で、Aと思う人は「Aと思う人」と言うときにライトを見せるというようなルールでやって、そのルールの説明をしたときに、例えばこの問題でというその例えばの問題が給食でした。給食の問題で、給食で使っているマークが2つ出ました。1つはかんちゃんマーク、もう一つはモリモリキング、この2つが出たときに沸きました。成人は。懐かしいんだね、給食が。給食が学校生活の一風景として残っているんだなあということを思って、紹介させてもらいました。ありがとうございました。

○ **教育委員（梶田知靖君）** おはようございます。本年もよろしくお願ひいたします。

私も成人式のほうへ参列させていただきまして、とても華やかな式で、市長が最初の冒頭に、何年も成人式に出席しているんですけども、黙祷から始まる成人式は初めてだということをおっしゃって、そこがとても印象に残りまして、成人の子たちも石川県に思いが届くような黙祷ができたのかなと思いました。

今、教育長から紹介があったクイズ形式のも、私も一緒に参加させていただいて、こども110番の家は今渡北小学校が発祥というのを聞いて、可児市に誇れるものがいっぱいあるなあと思いながら聞いておりました。

ありがとうございます。以上になります。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

議事

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、議事に入ります。

○ **事務局長（飯田晋司君）** 議案書を御覧ください。

表紙の裏のページの目次のとおりでございます。

本日は報告1件、議案が2件です。

報告第1号 令和6年度全国学力・学習状況調査の参加について、議案第1号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、令和5年議案第37号 個人情報等の開示等審査請求裁決書について（継続議案）、以上3件についてよろしくお願ひします。

○ **教育長（堀部好彦君）** 本日の議事の議案第1号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、前回からの継続議案であります令和5年議案第37号 個人情報等の開示等審査請求裁決書について、及び児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、意思形成に関わる案件、個人情報やプライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この3件については非公開といたします。

それでは、報告第1号 令和6年度全国学力・学習状況調査の参加についてを議題といたします。

○ **学校教育課長（佐野政紀君）** 議案書1ページを御覧ください。

報告第1号 令和6年度全国学力・学習状況調査の参加について。

令和6年度に実施される全国学力・学習状況調査の参加について、次のとおり専決処分したので、これを報告し、承認を求める。令和6年1月19日提出、可児市教育長 堀部好彦。

記、専決処分書。

可児市教育長に対する事務委任規則第4条第2項の規定により、次のとおり専決処分する。令和5年12月28日専決、可児市教育長 堀部好彦。

記、令和6年度全国学力・学習状況調査に参加する。

詳細は、教育研究所主任指導主事より説明します。

○ **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** では、お願いします。

では、右上に別紙1となっております別冊を御覧いただきたいと思います。

1ページの中段、調査の対象ですが、例年どおり小学校6年生と中学校3年生の2学年となります。

教科に関する調査につきましては、小学校は国語と算数、中学校は国語と数学、それぞれ2教科となります。

次に、2ページを御覧ください。

中ほどより上、イにもありますように、教科に関する調査と併せて質問調査も行われます。この調査は、新たな試みとして、令和6年度は1人1台端末として児童・生徒が持っておりますタブレットを用いたオンラインによる回答方式で実施されます。

調査実施日ですが、令和6年4月18日木曜日となります。ただし、質問調査ですが、4月10日から4月30日までの間に各学校の状況に応じて実施するという事になっております。

なお、少し飛んでいただきまして16ページを見ていただきますと、当日の時間割モデルが示されておりますので、これを見ていただくとイメージしていただきやすいのではないかなと思います。

そのほか、詳細につきましては本実施要領を御覧ください。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** よろしいですか。そこまでですね。

ただいまの事務局の説明について御意見、御質問はありますか。

よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

特にないようですので、この件について承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、この件については承認をいたします。

各課所管事項

○ **教育長（堀部好彦君）** 続いて、各課所管事項です。

○ **事務局長（飯田晋司君）** 私からは、先ほど来お話が非常に出ております能登半島地震の関係で、本市の職員の応援派遣について状況を紹介させていただきます。

北陸の近県を中心に、全国の自治体から応援・支援の派遣がされております。本市におきましても、複数の自治体へ職員を派遣して支援活動を行っております。いずれも石

川県の自治体への派遣ということで、1月5日の羽咋市への給水車による応急給水活動のスタートを皮切りに、七尾市での応援、物資運搬用のスライドダンプの提供は物資の提供、17日から中能登町へ下水道の管渠被害調査、下水管の被害の状況調査、それから中能登町で住家被害調査、これは住み家の地震による被害の調査であったり、罹災証明の発行業務、同じく中能登町での災害廃棄物の仮置場の開設や、運営支援、それから石川県の3市町で応急危険度判定、それから輪島市での避難所運営支援であったりと様々な形での支援を行っております。

現在も上下水道とか建設技術系の職員中心に行っておるんですけども、それが第2陣、第3陣ともう既に行っておるものもありますし、これからそうやって続いていく支援もあるということで、これは私も昔の話なんですけれども、先ほども出ていましたけれども、阪神・淡路大震災、29年前に起きたときに私もまだ当時若手の職員だったんですけど、罹災証明の発行業務に芦屋市のほうで従事したことがあります。5日間ぐらいの派遣で、交代で多くの班が行ったんですけども、そのときに避難所運営の担当と罹災証明の担当と一緒に5人ぐらいで行って、2人が避難所で、3人が罹災証明というような担当に分かれてやりました。

今回、能登半島の地震についても、被災地の状況によっては、全庁的に職員が順繰りに支援に向かうというようなことも十分考えられるのかなあと思っておりますので、御承知おきいただければと思います。以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育総務課長（水野 修君）** おはようございます。今年もお願いいたします。

私のほうからは2点お伝えしたいと思います。

まず1点目ですが、教育振興基本計画の策定の進捗状況でございます。

昨年までに委員会が開催されまして、大体の案がまとまりましたので、1月10日から31日までの間で今パブリックコメントをかけている状況でございます。現時点ではまだ御意見はいただいている様子でございますが、今開催中ということでございます。

あわせて、今市内の小・中学校の教職員の皆さんにこの案を見ていただくようお願いをしております。また、この中で、来年度から始まるこの計画の内容をしっかりと知っていただいた上で皆さんに教育の現場に立っていただくということを目的として、今回は全員をお願いをしているところでございますし、併せて意見等ございましたらいただきたいというようなお願いをさせていただいております。

その後ですが、最終的にはこの教育委員会会議の場で議決をいただいて、4月からというような形になるかと思っております。内容につきましては、この後の教育政策会議のほうで御説明をさせていただきますので、またよろしくお願いいたします。

2点目ですが、お手元の中に教育委員視察研修資料というのがあるかと思っております。視察についてでございます。簡単に説明だけさせていただきます。

ちょっと今回はどうしても都合で行かれないという委員の方もお見えではございますが、相手があることでございますし、いろいろな日程の状況も、この日しかちょっと無理だったので申し訳ないですが、2月8日木曜日に行わせていただくということになります。向こうには10時からという形でお願いはさせていただいております。場所につきましては、揖斐川町にあります西濃学園、学びの多様化学校である西濃学園を視察させ

ていただきたいと思います。委員さんと事務局という形でいつも行っておるところではありますが、こちらのほう、我々もいろいろ勉強したいということで、結構な大所帯で伺うこととなりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

またこの件につきましては、行かれない委員さんにつきましても、ぜひこういうことを聞いておいていただきたい、そういうことがございましたら、また事務局のほうにお伝えいただきたいなあとと思ひます。そのことをしっかり聞いて、こちらのほうに事前に聞いて教えていただくというような形を取らせていただきたいと思ひます。行かれる方につきましては、7時45分に市役所を出発いたしますので、それに間に合うようにお越しいただきたいと思ひます。

簡単ではありますが、私のほうからは以上になります。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校教育課長（佐野政紀君）** よろしくお願ひします。本年もよろしくお願ひします。

インフルエンザの感染状況の対応は現在も継続しておりますが、新年落ち着いた状況で学校始まりとなりました。

冬休み期間中ですけれども、児童・生徒自身の大きな交通事故等の報告はゼロです。県の「教育相談ほほえみダイヤル」へ児童・生徒から電話をした件数もゼロということで、よいスタートをすることができております。

学校は、年が明けましてから、本年度の学校運営の検証から成果と課題を明らかにして、次年度の教育課程の見直しの取組に入っております。社会が大きく変化しておりますし、学校に求められるニーズも刻々と変化をしております。学校評価の説明をこの後、担当主事のほうからさせていただくんですけれども、学校はこの時期、外部評価や内部評価を含めて教職員の意見や願ひを突合せながら、次年度に向けて学校改革や改善に対する願ひを持ち、新たなプランを立てることになります。

よいお知らせが2つあります。

1つ目はこの箱ですが、大谷翔平から届きました。グローブありますので、これは実は可児市教育委員会には届いたんですけれども、可児市教育委員会にはグローブは頂けておりません。小学校に頂きました。今渡北小学校さんに今日教育委員会会議があるので、教育委員さん方にもちょっと見て手に取っていただきたいのでということで、許可を得て開封させていただいておりますので、後ほど手に取っていただければなというふうに思っております。各学校3つグローブを頂いております。うれしい報告の1つ目です。

それから、うれしい報告2つ目なんですけれども、今報道等で教職員の精神疾患に関わる報道があります。毎年大体全国で5,000人程度の教職員の方が、精神疾患に伴って休職をということで高止まりの状況が続いてきておりましたが、今年度の最新の調査で、それが6,000人を超えるというデータが公になったところです。

可児市の現状はどうかといいますと、可児市はおかげさまで昨年度と今年度、新規の教職員の休職はゼロです。心と闘っている先生は、いないわけではありませんけれども、休職につながるという事実は、可児市はおかげさまで出ておりません。これはストレスマネジメントを個々の先生方が意識しながらしているということもそうなんですけれど

も、ある調査を分析しますと、同僚性という言葉が学校の現場でもよく使うんですけれども、困ったときに上席、上司からのアプローチであったり、同僚からのアプローチがよいという数値が全国・県に比べて可児市は高いです。こういったことも、先生方の安心・安全な職場環境というところで数値に現れているのではないかなというふうに思っているところです。

もちろん休職にはなっておりませんが、心と闘っている先生、体と闘っている先生におかれては、各学校にいるスクールカウンセラーであったり、産業医がいますので、産業医に面談をするといういざないもさせていただいているということはお知りおきください。ということで、2つ目のよいお知らせは教職員のストレスチェックの状況についてお話をさせていただきました。

12月15日以降の学校に関わる動きですけれども、冒頭でインフルエンザの感染状況のお話をさせていただきましたが、学級閉鎖は継続して今6校9学級です。全てインフルエンザです。コロナもひょっとしたらというところもありますけれども、上がってきている症状はインフルエンザです。今日現在、閉鎖している学級はありません。

それから、毎月報告をさせていただきます希死念慮につきましては、この後また担当のほうから報告をさせていただきますけれども、主な希死念慮の要因は、今回は、家の仕事をしないと叱られるとか、担任からの励ましの言葉がプレッシャーになったとか、仲のよかった友達との関係が悪化した、自分の学力へのふがいなさがストレス等の報告を受けております。

最後です。1月17日に可児市教育実践論文の審査会がありました。以前は教育委員さんのお力をお借りするときもありましたけれども、コロナを経て縮小の方向でこの審査会は行っております。本年度は24名の応募がありました。学び続ける教職員の取組の一つに、自分自身の実践をまとめるという営みがありますが、個人でテーマを設定して論文を作成するというものです。

優秀賞、優良賞が選出されるわけなんですけれども、優秀賞5点、優良賞7点、そして上位4点はこれから岐阜大学の論文審査のほうに進んでいくこととなります。教科や特別支援教育、ICT活動をテーマにしたものや、チーム担任制で新たな挑みをしている内容の論文が複数ありました。この取組は、教員の資質向上にもつながり、教員の成長するための大切な姿と捉えております。教職員のキャリア・パスポートと言い換えることもできると思います。教職員の頑張っている姿の一つとして報告をさせていただきますので、また学校訪問等で校長先生方とお話しされるときに話題にさせていただくとよいかなというふうに思っております。

なお、表彰式は3月5日を予定しております。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** 失礼します。

では、別冊の教育研究所よりの冊子を御覧ください。

今回は大きく2点です。

私からは大きく1点、「笑顔の“もと”」重点事業に関わっての進捗状況について、細かく言えば3つお願いしたいです。そして大きく2点目としましては、学校評価について、担当の古野主事より話をさせていただきます。

では、まず不登校支援についてです。

1枚はねていただきまして、3ページを御覧ください。

中ほどの表を見ていただくと分かるように、つながりサポーターについてですが、本当に精力的に家庭訪問をしていただいて成果が現れております。直近、表の一番下ですが、12月でいいますと、児童・生徒29人の家庭訪問を行い、それによって8名がスマイリングルームに来られました。そのうち3名が初めてスマイリングルームに来られたのですが、数値だけではちょっと伝わりにくいところもありますので、今日はそのうちの1ケースを少し紹介させていただきます。

表の下、四角で囲った部分を御覧ください。

1人の子ですが、その子は小6で昨年度から少し登校できないということが増えて、今に至っております。それどころか、最近では自分の部屋の扉にバリケードを作ってしまった、誰も入ってこられないようにするという日も中にはあったそうです。そういう状況でしたので、12月下旬、両親がそろってスマイリングルームへ相談に来られたので、学校と連携しながら、つながりサポーターがまず家庭訪問をしたんですが、12月は本人に会えませんでした。

年が明けまして、冬休み明け、この児童が冬休み中に両親と外出できたというような情報が入ってきましたので、それを聞きつけたつながりサポーターが、今がチャンスということ判断して2回目の家庭訪問をすると、そのときもちょっとバリケードらしきものはあったそうなんですが、それを取り除いて、つながりサポーターを部屋の中へ招き入れたとのことでした。またその1週間後は、さらにメタバースでもつながることができております。そして、そのように外とつながり始めたこの機会を捉えて、ここぞとばかりに研究所から学校へケース会議を提案させてもらって、外部機関にも参加していただきながら、今週でしたが、学校のほうでケース会議を行って、今後の支援の方向性を確認しました。

これはほんの一例ではありますが、つながりサポーターはこのように本当に精力的に動いておりますので、御紹介をさせていただきました。

もう一つ、不登校支援でスマイリングルーム関係です。

3ページ下段から4ページにかけてたくさん写真を載せさせていただきましたが、今週の火曜日でしたが、地域の方々11名の御協力を得ながら、餅つき大会をスマイリングルームで行いました。当日ですが、小1の子から中3の子まで28名の児童・生徒が参加することができ、実際にお餅をついたり、つくたてのお餅やみそ汁を作っていただいたんですが、そのみそ汁をおいしく頂きました。学校に登校できないと、体験活動とか地域の方々との触れ合う機会というのが少なくなってしまうんですが、本当に室長はスマイリングルームの子たちにもということで様々な行事を企画して行っております。

次に、4ページ下段からです。

細かい2点目、ICT教育についてです。

後ほど古野主事が学校評価について話をしますが、今年度の学校評価を見ますと、ICTの積極的な活用という部分は前年度より少し下がっています。ただ、ほかの項目に比べると高い評価ではあるので、あくまでも前年度より下がっているということですが、これの捉えですが、ある程度、例えば先生が前のモニターで教材を提示するということ

はほとんどできているので、さらにこれをどう子供たちの学びにつなげていくかというワンステップ上がることを現場が求めているというふうに研究所としては捉えています。

そこで、研究所として次の一手ということで、資料の5ページのほうになるんですけども、②ロイロノートの授業実践の共有という手だてを打ちます。ロイロノートというのはソフトなんですけれども、これは先生が教材を提示するのはもちろんですけども、子供たちが意見を交流する上でもとても使いやすいソフトなので、これをまず導入するということです。しかし、導入しただけではなくて、ロイロでいろんな実践を各先生が行っていますので、その実践をどんどん入れていく。また、作成した教材を入れていく、ためていく。可児市のどの先生でもそれが共有できるようにしていくということを行います。先生方に頼むだけでは難しいので、研究所でやっております学校所員会とか、可児市学校教育研究会でも授業をやりますので、そこで授業をロイロを使ってやったときには、その教材を研究所のほうで入れていくということもやって、どんどんためていきたいなということを思っています。これは、先生方の働き方改革にもつながるというふうに考えておりますので、次の一手として進めていきます。

3点目、幼保小連携です。

令和4年度から来年度6年度にかけて、架け橋プログラムというものを東明小学校区で行っているということは今までもお伝えしておりますが、今年度の一つの成果として、5ページにありますような接続期カリキュラムというものを作成しました。今までは小学校だけのスタートカリキュラム、小1がどうスタートするかというカリキュラムでしたが、これを見ていただくと分かるように、5歳児と小学校1年生ということで2年間の接続期カリキュラムにしております。

これの肝は、その表の一番上、東明小の「笑顔の“もと”」を一つ軸にしてつくっているということです。東明小は「すすんで なかまと おわりまで」。これを受けて、幼保園のほうでもやはり幼児期までに育てたい10の姿というものがあまして、自立心とか道徳心とかいろいろあるんですが、その東明小の「笑顔の“もと”」につながるようなものは何だろうと。だから、その中で「すすんで なかまと おわりまで」につながるものは協同性ではないかということで、小学校の「笑顔の“もと”」を意識して幼保園でも活動していただいております。

ですので、このカリキュラムをつくるのが目的ではなくて、つくることを通してどんな「笑顔の“もと”」を育てたいかということを本当に何度も議論していく、これが本当に一番の成果かなということを思っております。

長くなりましたが、私から以上です。

では、次に古野主事から学校評価につきましてお願いします。

○ **教育研究所指導主事（古野 寿君）** よろしく願いをいたします。

それでは、令和5年度教育評価のまとめについて御説明させていただきます。

別冊になっております令和5年度教育評価のまとめを御覧ください。

それでは、表紙をめくっていただいて1ページ目から2ページ目を御覧ください。

この教育評価ですが、毎年市内全ての先生方に御覧いただいている12項目30観点で自己評価をしていただいているものになっています。これは、第2期可児市教育振興基本計画に基づいて設定されたものになっています。

それでは、本年度の可児市の状況について説明させていただきます。

続いて3ページ目になりますけれども、3ページ目は、今年の小・中・市の平均が載っています。

4ページ目を使って説明させていただきたいと思いますので、4ページ目を御覧ください。

4ページ目には、令和2年度からの経年変化のほうが表示されています。表の一番下になります今年度の全30観点の評価平均は、昨年、一昨年と全く同じ3.34でした。

次に、特に数値が高かった点について説明します。

まず、表の上のほうにあります生徒指導の項目9、11になります。

9番のQ-Uアンケートについては、紙での実施からタブレットを活用したWEBQUとなって今年で2年目を迎えています。紙でのアンケートでは、回答が返却されるまで2週間程度を要しますので、アンケートに基づいて児童・生徒の悩みをすぐ対応するということが難しい状況がありました。しかし、WEBQUでは回答後、即結果が出ます。児童・生徒の悩みにすぐ対応することができます。こうしたICTの持っている即時性を生かした指導援助が効果を上げていること、そしてその指導援助にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとしっかり連携できていることが、この項目の数値を上げていると考えられます。

次に、表中ほどより少し下になります。

組織経営の21、22が大変高い数値になっております。これは、子供たちの未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」を育むという可児市教育委員会の願い、各学校がこの願いをしっかりと受け止めていることはもちろん、そこに各校の特色を加え、未来の笑顔につながる特色ある教育の実現のために、校長先生方のリーダーシップの下、校内連携がしっかりと行われていることを示しています。まさに大きな一本の木のように思いがつながっています。この評価は、各校の教育目標の実現、そして「笑顔の“もと”」を育む教育の推進に大きな力を発揮していると思われまます。その一つの現れが、教育委員の皆様にご覧いただいた笑顔の学校公表会の広見小学校や広陵中学校のすばらしい姿だったと思います。

次に課題です。

先ほど三宅主任の話があったように、表の3番になります。「ICTを活用した授業を行っている」の項目が昨年度より下がっています。これは、先生がICTを活用して分かりやすく教えるという段階から、児童・生徒自身がICTを主体的に活用していく授業をつくっていかなければならないという段階へ移行していくんだという先生方の意識の変化を表した数値であると感じています。今まさに可児市で取り組んでいる課題です。

今後も、先ほど三宅主任からお話があったような方策を取りながら、児童・生徒同士が繋がって、つながりながら学ぶことができるICTの効果的な活用方法に重点を置いた支援を行っていきたいと考えております。

このように、教育委員会としましてはデータを分析しながら、来年度の可児市学校教育の指導の方針と重点の作成に生かしています。また、各校には学校別のデータもお渡ししておりますので、分析を各校で行い、来年度の教育課程編成に生かしていただい

いるところですよ。

なお、今後は第3期可児市教育振興基本計画策定に伴い、この教育評価も変更していく予定となっております。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校給食センター所長（水野伸治君）** 私のほうからは今回特にございませぬ。
- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
今、各課からお話がありましたか、御質問、御意見はありますか。
- **教育委員（長井知子君）** 県のほほえみ相談室への相談がゼロだったとありましたが、これは県のほうに行くと言情が入ってくるんですか。
- **学校教育課長（佐野政紀君）** そのとおりです。県のほうに相談があった場合には、可茂教育事務所のほうに県の出先機関の部門がありますので、そちらから教育委員会の担当のほうに情報提供があるという流れになっています。その流れの中での可児市からの問合せがなかったということですので、ゼロというふうには理解をしています。
- **教育委員（長井知子君）** それは、この学校の子とか学校名とかは出ないんですか。
- **学校教育課長（佐野政紀君）** そうですね。相談される方が、なかなか自分の学校の情報とか自分の名前を言わないケースのほうが多いので、中にはどこどこ学校の誰々というケースもありますけれども、可児市のということが分かったときには、可茂の教育事務所を通じて可児市に情報が入るといった流れになっています。
- **教育委員（長井知子君）** 分かりました。ありがとうございます。
- **教育長（堀部好彦君）** ほかはありませんでしょうか。
- **教育委員（長井知子君）** スマイルグループのお話いろいろ聞かせていただいてありがとうございます。こういった話は本当に教えていただかないと分からない話なので、また教えていただけたらと思います。
その中で、餅つき大会がありましたか、その中で地域の方に御協力していただいといたのはどこかの団体の方なんですか。
- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** 室長は昨年度まで旭小学校のほうで校長先生をやってみて、そのつながりがあって、男性6名、女性5名なんですけれども、男性6名のほうは餅つきグループ、ちょっと名前は分らんですけど、ほかのところでも餅つきをやっておるような方々で、校長時代のつながりがあったということですよ。女性5名の方についても旭小学校のときにつながりがあって、学校にも、お店との関係でもちょっと連携を取っていた方ということですよ。
- **教育委員（長井知子君）** 分かりました。
あと、ここで例として挙げてくださった小学校6年生の男の子が、家庭と学校とスマイルグループがちゃんと連携、一つにつながっているなあと感じて、すばらしいなあと感じて安心しました。ここでは分からないようなたくさんの御苦勞や、いろんなことを各家庭や子供たちにしてくださっていると思います。ありがとうございます。以上です。
- **教育研究所主任指導主事（三宅愛彦君）** ありがとうございます。伝えておきます。
- **教育長（堀部好彦君）** ほか、どうでしょうか。

〔挙手する者なし〕

では、私からは4点お願いします。

1点目ですが、事務局長の報告の中に、可児市役所職員が能登半島地震の被災地への派遣ということで何名かが御努力いただいているということで、大変すばらしいなど敬意を表したいと思います。とともに御承知おきください、教育委員さん。今のような状況、今のような話は校長会、教頭会等でもお話をさせていただいております。可児市の市役所の職員がどのように震災に関わっているのかということ伝えていくことは、先ほども申し上げたように、教育に携わる者として今回の地震災害をどう見ていくのかということをもつながるといふふうに思っていますので、御承知おきください。これが1点目です。

2点目は、学校教育課長のうれしい報告の中に一つ、心が折れそうな教職員が可児市にも何名かいるんだけど、折れてしまっていない。それぞれの学校の同僚性の高さ等についてお話をさせていただきました。学校のそういった同僚性の高さは、つまるところ、私は管理職、校長・教頭の資質・能力及び校長・教頭の心の安定だと思っています。さらに言えば、そういった管理職を支えている教育委員会の働きかけが私は学校をつくっているというふうに思っています。改めて皆様に感謝を申し上げます。これが2点目。

3点目、不登校についてですが、長井委員も触れておられました資料の3ページ、8名のうち新規3名がスマイリングルームに来室できたよと。そのうちの1名について詳しく情報をいただきまして、ありがとうございました。長井委員の言われるように、関係者の連携のたまものであろうというふうに思います。スマイリングルームの新たな取組、新たな人事配置、新たな人材の配置、そして学校との連携のたまものだと思います。

加えて、私はこの子にも今後聞けることがあればということで、どうしてスマイリングルームに来られたの。バリケードまで作っちゃって、お父さん、お母さんとも会いたくないと言っていたんでしょう。どうして来られたの、来られるようになったのと。聞くタイミングや聞き方は難しいと思いますが、これは分析だと思います。今の連携がすばらしかったですね。人材配置や新たな取組、メタバース、これはすばらしいですねというのは大人の理屈ですよ。子供の言葉で、子供目線で、子供はどう思っていたのかということ、これも大切にしていきたいなというふうに思っていますので、そんなことができればよいなあとというふうに思いました。

それから学校評価、分析ありがとうございました。4点目です。学校評価については、教育委員さんに細かなデータをお配りしておりますが、この説明を理解していただくということのみならず、各校の学校訪問で子供たちを見る視点だとか、先生方を見る視点だとか、校長先生との懇談の視点だとかということに役立てていただけると大変ありがたいです。よろしく願いをします。

それでは、次へ行きたいと思います。

委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** 次に、教育委員からの提案協議事項についてを議題といたします。

何かありますでしょうか。

よろしいですか。

[挙手する者なし]

その他

- **教育長（堀部好彦君）** では、次にその他に行きます。

次回の日程です。

- **教育総務課長（水野 修君）** それではお願いします。

先月、次回の日程の御提案をいたしました。今回は2月15日木曜日の午前9時からということですのでよろしくお願いをしたいと思います。場所はここと同じ場所です。市役所4階の第3会議室ですのでお願いします。次回も、多分政策会議と一緒にやらせていただくことになると思いますので、併せてお願いをいたします。

それから3月の日程でございますが、ちょっと議事の兼ね合いとかいろいろございますので、現在調整中でございます。また皆様方にいろいろお聞きしながら調整させていただきますので、よろしくお願いをいたします。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

それでは、休憩なしで続いていきたいと思いますが、よろしくお願いいたします。

(以下非公開)

(以上非公開)

閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、これにて教育委員会会議を閉会します。お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会 午前10時30分